

## 卒業文集

蔡圳泓

私は中国の広州薬科大学食品科学与工程学科を卒業して亜細亜友之会外語学院に留学しました。来日して間もない頃、私はとても簡単な日本語しか話せず、日常生活をするのに十分な日本語能力も習得しておらず、進学できるレベルには程遠い状況でした。しかし、一年間の勉強を経て、私は多くの先生方のご指導のもとで理想の大学院に合格できました。ここで私の進学の経験を皆さんと共有したいと思います。

私の場合、専攻を変えて情報学を新しい専攻にしました。これは、ゼロからスタートして専門知識を勉強しなければならないことを意味します。以下は私からの、同じく情報学を専攻にする後輩たちへのアドバイスです。情報学の試験は基本的に学校ごとに内容が違います。そのため、専門知識の勉強に入る前に、志望大学を決めておいた方が良いでしょう。その次に、志望大学の募集要項から試験科目の情報を入手し、必要な科目の勉強に重点的に力を入れましょう。そうすることによって時間の節約になります。志望大学を短時間内に決められない人は、以下の科目をひとまず勉強しておいた方が無難でしょう。データ構造、微分積分、と線形代数学はほとんどの大学の入学試験の試験範囲に入っていますので、非常に重要です。「弱点克服」シリーズがおすすめです。内容がわかりやすく、日本の入学試験の問題の特徴を把握するのに最適です。本試験の3ヶ月前から、志望大学の過去問題集をこなし始めても良いでしょう。単に問題を解くのではなく、解く過程のなかで自分自身の問題点をみつけ、それを補うよう対策をたてるべきです。個人的な見解ですが、理系受験の成功のカギは筆記試験の成績にあります。そのため、皆さんには気を引き締め、多くの過去問題集を解き、専門知識をしっかりと習得してください。

語学力に関しては、TOEICは約800点、TOEFL約85点をとれば大丈夫でしょう。また、東京大学と京都大学以外の大学はTOEICの成績の提出を認めます。皆さんは自身の英語のレベルに合わせてTOEFLを受験するか否かを決めると良いでしょう。TOEFLの試験準備に費やす時間はとにかくTOEICよりも多いからです。

教授との事前連絡と面接についてです。教授と事前に連絡するならば、約2ヶ月前からコンタクトを取るのを試みましょう。情報学は人気のある専攻ですので、出願間近になると、教授のところに受験生からのメールがたくさん届きます。そのようなときは、自分が出したメールが教授の目にとまる可能性が小さくなるでしょう。メールを送る前に、大澤先生にメールの添削をお願いすると良いです。大澤先生はとても責任感の強い方で、メールの全ての文法の間違いを指摘して下さるほか、メールを送る際の礼儀作法も教えて下さいます。とても助かります。また、中国のメールアドレスは、送信したメールが教授のほうで受信拒否されてしまうことがあるため、使わないでください。Gmailもしくはヤフーメールのアドレスがあれば良いでしょう。どうしても教授との連絡が取れない場合、外国人入学試験を受けると良いでしょう。これは筆記試験の成績で合否が決まるので、より高い点数を取れるようしっかりと準備してください。

専攻を情報学に変更して受験する場合、面接で大学学部で勉強した内容について聞かれることが多いようです。自分の回答がなるべく情報学と関連づけて答えるのが良いでしょう。例えば、学部の授業で微分積分や情報学関係の授業を履修したことがあるというような答えなら良いでしょう。専門用語の説明も準備段階で時間をかけて勉強した方が良いでしょう。基本的な質問は日本語学校の先生方との模擬面接でよく練習しておいた方が良いでしょう。私の場合、国立九州大学と神戸大学2校を受験し、それぞれ合格しました。

最後に、亜細亜友之会外語学院の先生方にご指導頂いたことに感謝します。皆さんも理想の大学に合格できることを祈ります。頑張りましょう。